

調查概要

1 報告書について

本報告書は、令和7年4月11日に実施した「令和7年度足立区学力定着に関する総合調査」の結果を報告するものである。

調査の集計結果とあわせて、令和6年度に実施した同調査結果との比較及び学力と意識調査との関連性について着目し、その分析結果を記載している。

2 調査の目的

- ① 学習指導要領に示されている目標及び内容に基づき、児童・生徒の学力の定着状況を的確に把握する。
- ② 児童・生徒の生活・学習習慣等の現状を的確に把握する。
- ③ 各学校が区全体の結果を踏まえた上で、自校の結果を分析することにより自校の課題を明確にするとともに、指導内容や指導方法、並びに家庭との連携等における工夫・改善を図る。
- ④ 調査結果を分析し、区の教育行政施策に生かす。
- ⑤ 個人票などを基に、児童・生徒個々の実態に応じた指導改善に生かすとともに、結果及び課題を保護者と共有する。

3 調査の対象

- ・ 小学校 全67校の2年生から6年生までの児童
- ・ 中学校 全35校の1年生から3年生までの生徒

4 調査の時期

令和7年4月11日（金） ※ 全小・中学校で一斉実施

5 調査の内容

（1）学習定着度調査

前学年における学習内容の定着状況を把握するため、観点や領域ごとの正答率を測ることができるよう設計されており、どの科目も基礎問題と応用問題で構成されている。

また、国語と英語については、聞き取り問題が含まれている。

対象学年と教科は以下のとおり。

- ・ 小学校 2年生から6年生まで：国語・算数（各40分）
- ・ 中学校 1年生 : 国語（45分）・数学（45分）・英語（35分）
- ・ 中学校 2・3年生 : 国語・数学・英語（各45分）

（2）学習意識調査

児童・生徒の「学びの基礎力（学びを支える基礎的な力）」や「生きる力（これから社会に必要とされる力）」がどの程度身に付いているかを把握し、あわせてそれが学力とどのような関係性を示しているかを分析するために、日常生活や、学校・家庭での学習状況等を調査している。発達の段階に合わせた質問内容で「学習や生活についてのアン

ケート」調査としている。

対象学年と調査時間は以下のとおり。

- ・ 小学校 2年生から6年生まで：40分
- ・ 中学校 1年生から3年生まで：45分

6 調査の実施人数

単位：人

学年	国語	算数・数学	英語	学習意識
小学校	2年生	4,216	4,225	—
	3年生	4,255	4,261	—
	4年生	4,472	4,481	—
	5年生	4,625	4,631	—
	6年生	4,580	4,589	—
小計		22,148	22,187	—
中学校	1年生	4,199	4,197	4,196
	2年生	4,030	4,037	4,038
	3年生	3,902	3,909	3,915
	小計	12,131	12,143	12,149
合計		34,279	34,330	12,149
				34,450

7 各校の調査結果の公表

調査結果を1校1ページにまとめ、調査年度の「領域別正答率」「学習意識」と、2か年分の「平均正答率」「目標値」「通過率」を示している。また、各校の昨年度の取組みによる成果と分析結果、今後の学習指導の主な取り組みを記載した。

8 学習定着度調査分析の視点

学習定着度調査においては、一般的なテストとは違い、「○○点満点」といった得点方式で採点を行っていない。

区では、児童・生徒の学力の定着状況を的確に把握するため、目標値以上の正答があつた児童・生徒の割合を示す「通過率」に着目している。

(用語の説明は、P 3を参照)

